

令和2年度（第75回）文化庁芸術祭

「芸術祭の手引」公開に当たっての文化庁長官メッセージ

全国で新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言が解除され、先行きが不透明ながらも、徐々にではありますが、文化芸術活動が再開されている中、文化庁は本年度の芸術祭実施について検討してまいりました。

一部の文化芸術団体の皆様からは、現状では秋の公演に向けた準備が十分にできない、来場者の安全確保が難しいといった理由から文化庁芸術祭の実施を懸念する御意見を頂きました。

このような御懸念もある一方で、文化庁芸術祭の公演が行われることにより、文化芸術の関係者や鑑賞者は勇気付けられる、文化芸術の振興や活動再開の灯となるべく実施すべきではないかといった御意見も頂きました。

これらの御意見を基に、実施すべきかどうか冷静に検討してまいりました。その結果、厳しい状況においてこそ文化芸術は不可欠であり、文化庁長官としては活動再開や新たな創造の支援のため、文化庁芸術祭の実施に向けた準備を進めたいと思います。

進めていくに当たっては、先行きを見通せる状況でないことも考慮し、芸術祭参加公演の募集や審査について、柔軟に対応いたします。

なお、参加公演への応募を御検討になっている文化芸術団体等の皆様におかれましては、公演分野や公演開催地におけるガイドライン等を御確認いただき、新型コロナウイルス感染予防対策について御配慮くださいますようお願いいたします。

この文化庁芸術祭が、皆様の文化芸術活動の再開や創造の一助となれば幸いです。

文化庁長官 宮田 亮平